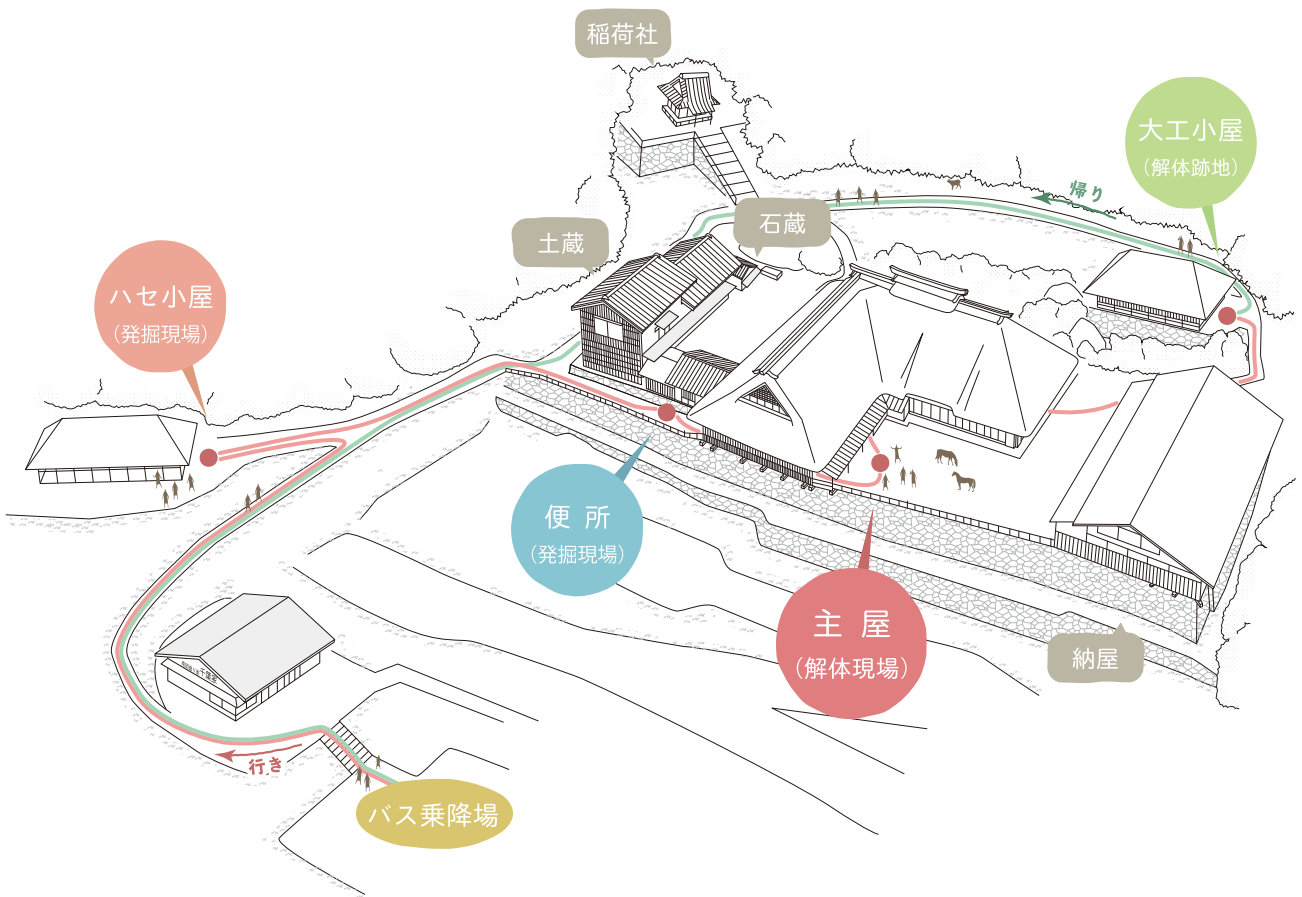


重要文化財  
千葉家住宅  
修理工事見学会  
2017.09.30 sat - 10.01 sun

江戸時代、飢饉に苦しむ人々に蓄えを分け与えるための事業として  
10年の歳月を費やし、建てられたと伝わる豪農・千葉家の屋敷。  
いま『平成の大修理』と銘打ち、再び10年をかけて甦らせています。



この修理工事は、事業費の一部に国庫より補助を受け、平成36年3月までの予定で実施しています。現在は、その中の仮設・解体作業を第1期工事として進めています。



[第1期修理工事の概要]  
工事期間：平成28年6月～平成32年1月（予定）  
発注：遠野市  
施工：株式会社 テラ  
設計監理：公益財団法人 文化財建造物保存技術協会

# ハセ小屋

建築年代：江戸末期〔推定〕

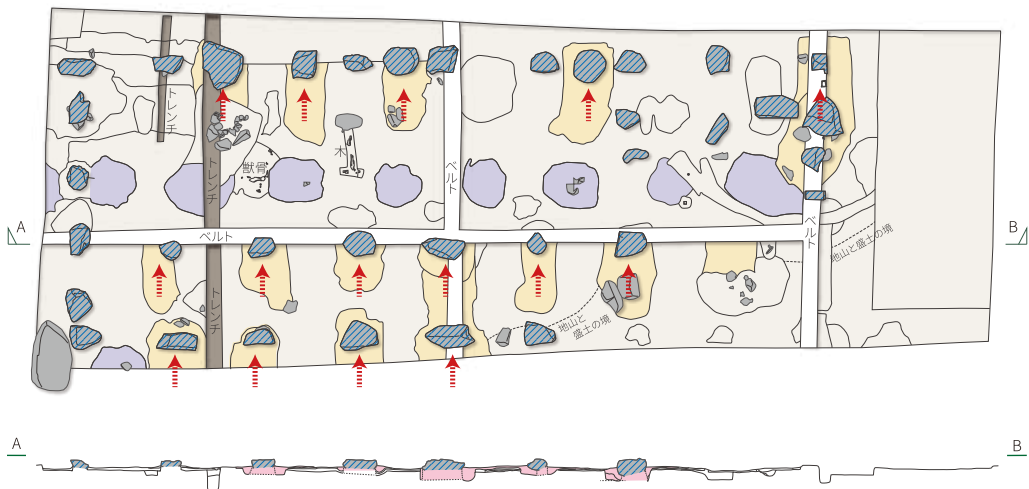
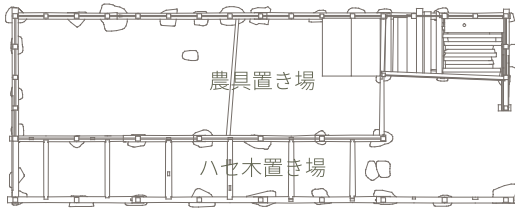
ハセ木（稲を掛け干しする丸太）  
を保管する小屋。



## 動かされていた礎石

発掘では、建物からはわからない歴史を  
土の色や質の違いなどに見ることができます。

ここでは、以前に別の建物が建っていたことや、  
今の建物も建った後で場所をずらしていたことが  
明らかになりました。

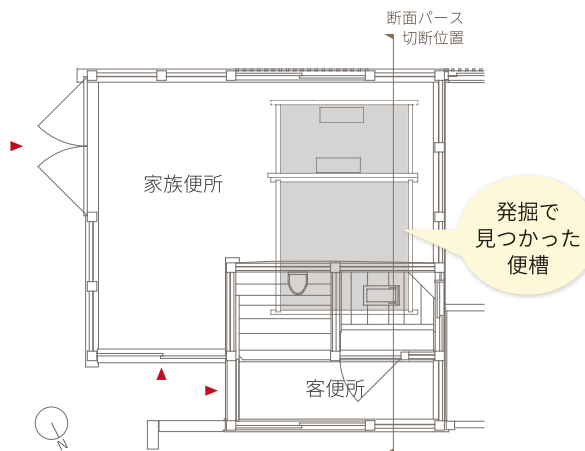


- : 現状の礎石
- : 礎石を据え直した痕跡
- : 別の建物の礎石穴
- : その他の石
- : 礎石を動かした痕跡

# 便所

建築年代：昭和 17 年〔課税台帳より〕

昭和 49 年主屋内に水洗トイレが  
つくられるまで使われた外便所。



## 2 in 1 な便所

今は物置になっていた建物ですが、  
聞き取り調査と発掘調査によって  
本来の姿がわかってきました。

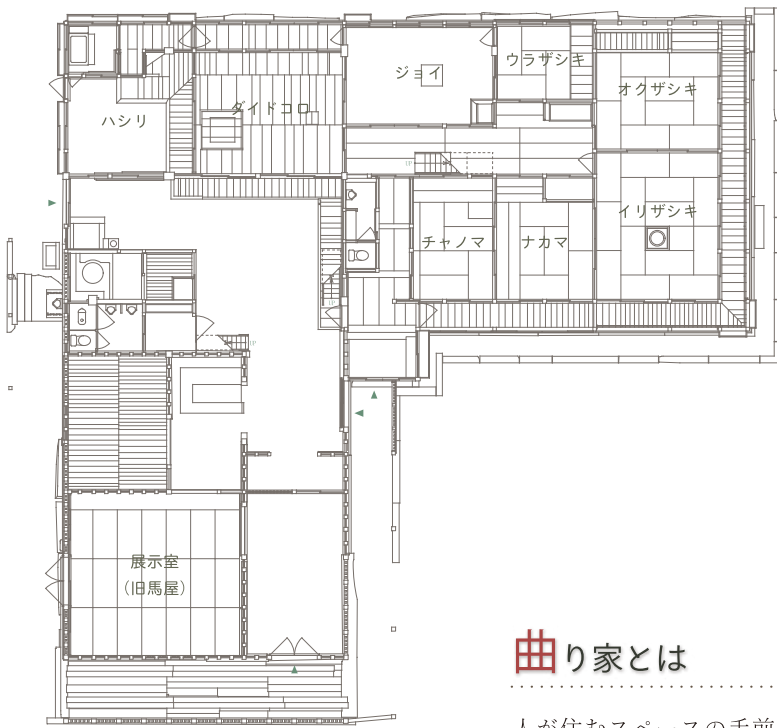
豪華な客便所と昔ながらの家族便所が  
合体した、独特なつくりの便所です。



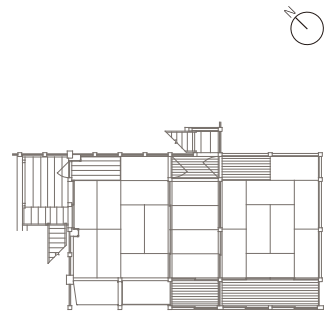
# 主屋

建築年代：天保年間（1831-1845）〔口伝〕

お救い普請で建てられたと伝わる、  
“曲り家”と呼ばれる形式の家。



1階平面図



2階平面図

## 曲り家とは

人が住むスペースの手前に突き出すように馬屋を設けた、L字型の民家を“曲り家”といいます。

旧南部藩では、馬産が農民の重要な生業だったため、馬を守るのに適した曲り家が多く建てられました。

## 千葉家の曲り家

千葉家の曲り家はとても大きく、また石垣にのるなど豪快な意匠ですが、間取や木の組み方などは、この地域の典型的な特徴をもっています。

豪農の威容と、遠野の伝統を兼ね備えた民家です。



## 直すための解体

この修理では、建物を一度解体して、傷んでいるところを直します。

つくりかたの特徴を念入りに調べながら丁寧に解体し、  
組立時には、できるかぎり元の技法を再現します。

そうして材料だけでなく、職人の技も後世に伝えていこうとしています。



## 歴史を探る

建物をばらしていくと、過去の改造の跡がたくさん出てきます。  
それを丁寧に調べ、歴史を探ることも保存修理の大事な仕事です。

例えばこの曲り家は昔、突き出した馬屋が今より短かったことがわかりました。  
写真を手がかりに、それがわかる痕跡を現場で探してみてください。



難易度★☆☆

さす  
扱首の違いに注目。



難易度★★★

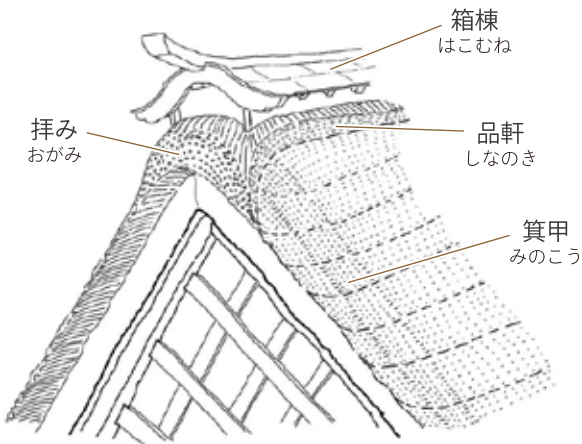
やなか  
屋中（屋根の横に渡している丸太）や  
桁の継ぎ目に注目。



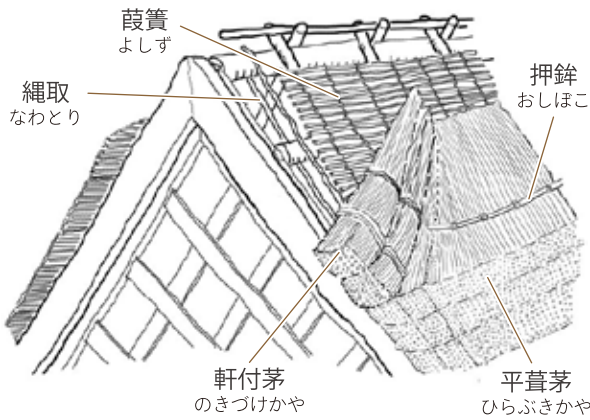
難易度★★★★

柱に残る壁痕に注目。

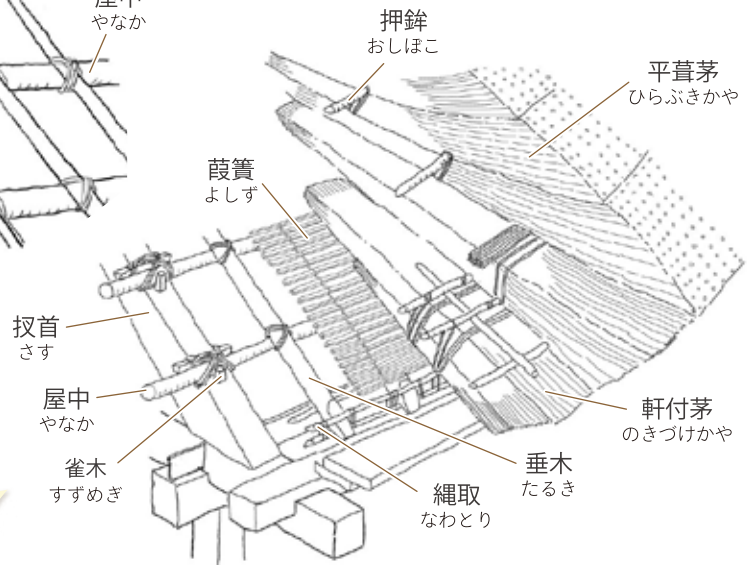
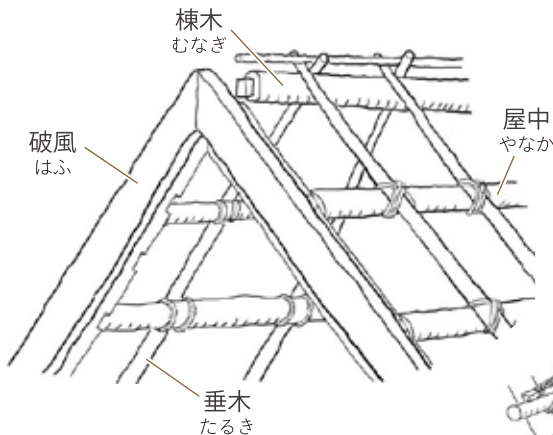
# 茅葺きの仕組み



屋根は、茅（かや）で葺かれています。千葉家では、茅にススキが用いられています。葺かれてから 40 年以上経過しているため、屋根面全体に苔が繁殖し、隅の部分には、杉や松の木が自生していました。



茅が降ろされ、屋根下地である屋中や垂木が露わになっています。美しい茅葺屋根を見えないところで複雑な構造が支えていることがわかります。



作業の手順

軒先の詳細